

N

P

O

論

楽

『NPO論楽』と題したこのコーナーでは、とかく難しくがちなNPOの論議を、

- ①やさしく解きほぐし
- ②「論を楽しむ」

ことを試みたいと思います。第2回目の今回は、石巻専修大学の佐々木万亀夫先生に、①「IT時代のNPO」という一文をご寄稿いただき、その内容を②4コマ漫画に仕立ててみました。

IT時代のNPO

佐々木万亀夫

NPOやNGOという言葉は1990年代に広く流布しましたが、本来的には昔からあったように思います。例えば、PTA、町内会、隣組(町内会の細分化組織)などがそれに当たります。町内会や隣組は自警や互助を目的としたものですが、現在は回覧板や町内会費の集金などの仕事くらいしかなくなっているところもあるようです。

より豊かな生活を求めて大都市に人口が集中し、地域社会の担い手である若者が居なくなり町内会などのコミュニティは活力がなくなりつつあるように思われます。また別の側面では、豊かさを享受するにつれて近所との互助意識が薄れ、個人主義が台頭してきたように思います。日本人の助け合いの美徳は、貧乏時代のものであり現代には当てはまらなくなると考えることも出来ます。しかし、1995年の阪神淡路大震災時のボランティアやNPOの活躍、被災地の八百屋さんが無料で野菜などを提供することなどを見る限り、完全に古(いにしえ)の美徳を失っているとは思われません。この美徳を残すことは非常に重要です。

一方、1990年代半ばからの米国を中心とするIT(情報技術または情報通信技術)革命により、物事の変化のスピードが増してきました。IT革命後の現在では、ITを活用することを考えなければなりません。古の美徳と、現代のITの融和を図ることが、IT時代のNPOの在り方の底辺にあると言えます。

町内会レベルの狭いコミュニティでは解決することが難しい問題も多くなっています。しかし、より広い範囲で多くの人に協力を求められたらどうでしょう。阪神淡路大震災、地雷の除去、難民の支援など日本全国や世界まで目を広げると、「日本人も捨てたもんじゃないなあ」と感じます。広域的にNPOを考える場合、人材不足は十分に克服できます。日本には1億人以上、世界中には何10億もの人がいますから。

ここで重要になることは、どのようにして多くの人々に連絡し参加しかつ議論してもらうかです。そこでITが登場します。既に多くのNPOが、ホームページを立ち上げ活動参加を募っています。ITのお陰で不特定多数の人に連絡することができます。更に、掲示板やグループウェアなどの技術を使えば、ディスカッションもできますし重要な情報や意見をデータベースとして活用することもできます。

このようなITの広域での活用を、コミュニティや地域のNPOで活かされればいいなあと思うのは私だけでしょうか。

きむちゅーがゆく

絵 ゆかちゃん

育む・集う・結ぶ

むうぶ

いしのまきNPOセンター

人々が北上川の流に乗って新しい時代の始まりを予感し、協力し合いながら前進しようとする姿を小さな芽に見立てています。

発行
特定非営利活動法人
いしのまきNPOセンター

2003年
冬
第2号

連絡先 〒986-0832
宮城県石巻市泉町3丁目1-63
TEL/FAX 0225-23-3641
Eメール npo@i-port.ne.jp
ホームページアドレス
www.i-port.ne.jp/npo/

NPO 新世紀

特定非営利活動法人いしのまきNPOセンター 事務局長 木村 正樹



NPOが日本の社会のなかで注目されるようになったのは、1995年の阪神淡路大震災をきっかけとしてNPO法の論議が高まりをみせていた頃からと思いがちですが、活動団体のあいだでは80年代の後半頃から、社会の問題解決を図るための活動を行う個人や組織が、その手法を学ぶためにアメリカやヨーロッパへ調査にでかけ、NPOにすでに注目していました。また、そのときに個々のNPOが活動をするうえで、かかせない存在として「NPOを支援するNPO」(中間支援組織)が存在していることに、特に注目をしていました。

このことは、NPO法人が社会に登場するのと同時期に、全国各地に「支援センター」と名前のついた「施設」や「組織」が多くつくられたことでもわかると思います。個々のNPOが活動を行ううえで、NPOを支援するためのインフラ整備(主に法律や税制など)はかかせません。その役割を「中間支援組織」と呼ばれる各地の支援センターが担っているのが現状です。

いしのまきNPOセンターも、地域のNPOを支援し、地域全体が豊かになることを、その設立目的に掲げスタートしました。21世紀の幕開けとともにスタートした活動も現在3年目を迎え、石巻市から「石巻市NPO支援オフィス」の施設管理運営の委託を受けたことから、有給スタッフが常勤するようになり、その活動の幅は飛躍的に広がってきています。期待される役割もますます高まってきており、その期待にどう応えていくかが問われてくると思います。

これからの数年間はNPOにとっては、まだまだ混沌とした時代が続くと思います。その状況を打破していくためには、NPOの組織や運営にかかわる理事・スタッフが常に学びな

がら成長していくことが求められると思います。日本の社会がおかれている状況の変化は、予想を上回るハイスピードで進んでいます。たとえば教育の分野においては学校週5日制の実施や総合学習への取組み、福祉の分野における措置制度から保険制度への転換、スポーツの分野における、スポーツ振興くじ(toto)の配分実施、NPO全般においてはNPO法の改正やNPO支援税制の創設・改正など、また、新たな法人制度としての中間法人の登場など、従来であれば議論が始まってから実施されるまで時間がかかっていたものが、短期間のうちに実施されるようになってきました。それだけに活動を行う者にとってすばやい対応と判断が求められるようになりました。

一年々々がめまぐるしく変化していく時代のなかで、しっかりと原点に軸足をのいた活動をしていくことが、これからのNPOには求められます。NPOの活動の原点とは、そのミッション(使命)にあることを忘れてはいけません。わたしたちはときとして、活動や事業を優先するあまり、設立時の思いを忘れがちになりがちです、何のために組織をつくったのかを時々振り返ることも必要です。

まだ、NPOにとっては過大に評価されている部分と不当に扱われている部分があると思います。NPOだからといって万能なわけではなく、また、NPOは安価なコストで何でもやる、などといった誤解と戦っていかなければなりません。支援センターとして求められる役割をしっかりと見据えながら、新年度にあたって新たな気持ちで活動に邁進していきたいと考えています。

むうぶ

育む incubate 集う communicate 結ぶ network

move [mu:v] 動かす、(精神的に)動かす、感動させる
新しい時代の胎動をNPOがつくるという思いを込めて...



楽しく学ぼうNPO 第3回研修会

講演会

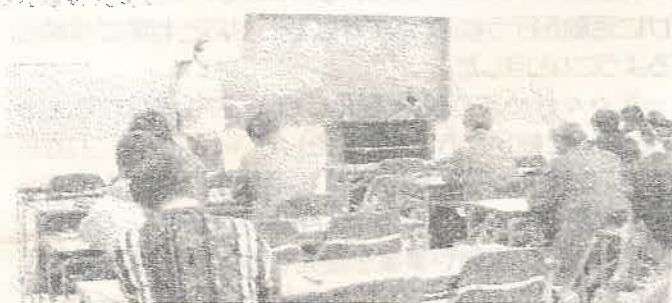
『NPOマネジメントについて』

講師

「人と組織と地球のための国際研究所」
/IIHOE

代表 **川北秀人**

(平成15年1月27日、於：石巻市総合体育館会議室)



●研修会レポート

研修委員会報告 佐々木万亀夫

第3回「楽しく学ぼうNPO」

1月27日に、IIHOE代表の川北秀人氏から「NPOマネジメントについて」というテーマで研修をしてもらいました。

IIHOEとは「人と組織と地球のための国際研究所」という意味です。何だか壮大な名称ですね。私なんか初めてこの文字を見た時は、「アイアイホー? ハイハイホーの仲間かな?」なんて不謹慎なことを考えてしまいました。まあ、しょうもない冗談はこれくらいにして、研修内容について簡単に説明させていただきます。内容は大きく、①NPOの定義と②6つの力(営の基礎)の2つに分けられます。

①NPOの定義

NPOは一般には非営利組織という日本語で説明されますが、川北先生は「民間・公益・非営利・活動・組織」という解釈をされました。

まず、民間については官の反意語として、官に依存せず、自立して運営する意。組織については「目的共有体」であるが、社会変化に応じて目的(設立理念)の見直しが必要。

次に、活動については、欧米のリーダーの考えを主に示し、「共感、参加(参画)、成果(変革)の実感」の必要性を説明してくれました。そして、公益とは利他、非営利とは収益を社会に再投資することを意味することの説明に加え、NPO法人は従来型の法人(財団法人、社団法人など)とは違い認証(届出)制であることや、決して役所の御墨付きではないので、市民に対する透明性が重要なことを説明してもらいました。

②6つの力(市民組織運営の基礎)

まず、次の6つの力を示してくれました。

- (1)目的・目標をしぼる力
- (2)会議で決める力
- (3)対策を考える前に原因を確認する力
- (4)事業・活動をふりかえる力
- (5)計画する力
- (6)協力者を募る力。

この中でも、基本的であるにもかかわらず、身に付いていない(1)～(3)について特に説明をもらいました。

(1)の力では、「Goal is the Dream with Deadline.」(目標は夢に期限をつけたもの)という言葉を用い、期限を絞ることなどの重要性を指摘。

(2)では会議とは、より深い理解と、より良い判断のため、の2つに分け実例を挙げながら分かりやすく説明してもらいました。

最後に、(3)と(4)の力に対する説明では、悪い現象に対する対策は一般的には原因や背景の究明をしていないために、表面的な緩和策にしかならない。これを抜本的に解決するためには、原因の調査と除去が必要であることなどが示されました。

楽しく学ぼうNPO 今後の開催予定

- 第4回 3月1日(土)
「民間助成財団からみたNPO」
- 第5回 3月14日(金)
「コミュニティビジネスの可能性について」
お申し込みは石巻市NPO支援オフィスまで

シリーズ 人が支えるNPO ②

ゆみちゃんのおじゃましま〜す!

シリーズ 人が支えるNPO 第2回は
「石巻を考える女性の会」さんへ
おじゃましま〜す!!

今までに何度となく、石巻市NPO支援オフィスで会議をされている「石巻を考える女性の会」さん。

何度かその模様を拜見させていただきました。と、いうのも「石巻を考える女性の会」さんの会議は、支援オフィス1階の事務所と同じ部屋にある「第3小会議スペース」で行われるからです。どうやらこれは、第3小会議スペースがお気に入りの



?!
そして、会議の席には必ずお茶と、様々な「お茶うけ」が…
会員が女性ばかりですから、ある意味これも特長なのでしよう。そして、そこで繰り広げられるのは、いつも熱気と活気に溢れた、まさに「女性パワー全開」の白熱した会議なのです。

↑支援オフィスでの会議風景

ところでみなさん「男性の会」ってきいたことありますか??
コーラスなど歌に関するところだったりとか、気づいたら会員が男性ばかりだった…などという会はあるけど、「男性の会」と名乗る団体にはいまだお目にかかったことがありません。
よこへいくと「女性の会」って、名前前からして、優しそうで身なかにカンジ♥

そこで、今回は「石巻を考える女性の会」さんへ
おじゃましま〜す!

昨年末に会長に就任された木村美保子さんにお話をいろいろ伺いました。

そもそも、石巻市内の女性団体の代表者の方々が集まって意見交換をおこなった模擬議事をきっかけに、みんなが集まって石巻のことを勉強したり、活動したりできないか…という思いから、現市議会議員の斎藤敏子さんを発起人に、有志で結成された団体とのこと。

もしかして、それってスペシャリストの集まり?!凄腕集団?!

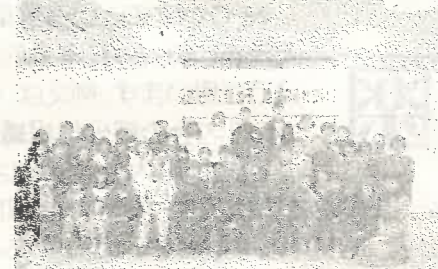
その設立目的は『石巻を明るく、楽しい、やさしい、住み良いまちにするため女性の力を合わせて活動する』。そんな

女性の繊細な気配りや感性を活かした活動の柱となるのが「まちづくり」「福祉」「教育」の3つとのこと。そんな今までの多種多様な活動は、とても多くて、ここでは書ききれないくらい…と、いろいろ例をいくつかあげると、

喫煙マナーのポスターを独自に製作、事業所へ会員が手分けして配布する。

それから、石巻市民の方ならどこかで見た事あるんじゃないでしょうか…「フン別」あるお散歩しましよ」という犬のイラストの入った小さな看板。これも「石巻を考える女性の会」さんの仕事?!です。

さらに、一人暮らしのお年寄りへ年賀状を出したり…子育てについてお母さん同士が話をする公開討論&意見交換会があつたり、いじめ問題の勉強会があつたり。石巻市へ公共施設に障害者用の駐車場設置の要望書を提出したり…



それに、手話教室でしょ、川開き祭りでの子ども夢ひろばの企画運営に、市内の保育所に保育に関する父兄へのアンケート調査をしてその希望 ↑こども土曜塾最終回のフォーラムにてやまとめを市へ提出したり、毎年テーマを定めてのフォーラム… あ! こども土曜塾 っつのもありました!

木村会長からは、即決行動型の団体を自負しており、とのお言葉。会員それぞれが、様々な団体で中心となつて活動しているメンバーが多いことから、そのネットワークと行動力が最大の特長なのでしよう。

そして、これから先は? と尋ねたところ、会員を拡大し、その活動の輪を広げると共に新たなネットワークづくりをすすめていきたい。自分達の出来ることから石巻地域で楽しく活動していきたい。女性の視点から地域にとって必要なことに気づくことが多いので、ひとつひとつコツコツと実践していきたい。1+1=2ではなく、10になる。そんな女性のアイデアは∞。あらゆる場で実行に移す。常に面白いことを探し出す。

次から次へと思いは広がっているようです。「石巻を考える女性の会」…そのパワーとスピードは緩むことなく進化し続けるのでしよう。

これからの「石巻を考える女性の会」は要check!
年会費は3000円 会員大募集中!!!!

次はどこへおじゃましようかな??

